

バス停タイムス

2013年 4月18日 No.8

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

構内操縦の入換作業の格差を見直せ！！

新幹線大井基地で働く皆さん！おはようございます。

3月16日のダイヤ改正から一カ月経ちましたが皆さんいかがでしょうか？各車両所とも作業はしやすくなっていますか？関連会社の皆さんはどうですか？直営も関連会社も業務の体制が一方的に変えられて、混乱の毎日が続き、疲労も蓄積されているのではないのでしょうか？

黙っていても変わりません！みんなで声を出すしかありません！

入換本数一人当たりの差が7本も！

東京修繕車両所の構内操縦が行っている入換作業では、第一検修庫と第二検修庫の入換本数に大きな差が出ています。中でも昼の入換は最大で22本もの差があり、一人当たりの入換本数の差が7本という日もあります。

管理者に、均等化できないのかと言っても、『だめだ！そのままやれ！』という対応で、なんら改善されず疲労と不満がたまっています。

私たちはこのような状況を改善するために、4月15日に、会社に対して申し入れを行いました。

【申し入れ内容】

「東京修繕車両所における構内入換作業に関する緊急申し入れ」
記

1. 東京修繕車両所における第一検修庫、第二検修庫の構内入換本数の格差を見直し、作業量の均等化を早急に行うこと。

以上



大井基地で働く皆さん！労働条件・職場環境を改善するため共に声を大きくあげましょう。JR東海労新幹線地本は皆さんと共に取り組みを進めます。

試験に不合格になったら担務変更！

会社は、3月29日に「車両検修、構内操縦及び信号扱い従事者の復帰教育について」なる掲示を各車両所に一斉に出しました。内容は「車両検修、構内操縦及び信号扱い従事者が責任事故やヒューマンエラー等を発生させた場合、統一した基準を設け復帰に向けた教育及び見極め試験を行う。」とし、4月1日より実施するとなっています。

また、「復帰教育」は「知識教育」と「技能教育」を実施し、見極め試験で「知識試験」と「技能試験」を実施し、7割以上の正解率で合格としています。試験の実施上限は3回とし、「不合格になった者は担務変更など必要な措置を講ずる」としています。

事故やヒューマンエラーは、誰も起こしたくて起こすものではありません。不幸にして起こした場合、本人は十分反省します。しかし、会社は試験不合格の場合「担務変更など必要な措置」を取るとしています。これでは社員は「何かやったら大変なことになる」となり作業中も萎縮し、逆に事故やヒューマンエラーを誘発するのではないのでしょうか。

また、事故やヒューマンエラーには必ず原因があります。「試験を行えばなくなる」ということではありません。会社は、「安全輸送や車両品質の確保の観点から」行うとしていますが、「教育」「試験」は明らかに見せしめ的な要素が含まれます。

JR東海労新幹線地本は、責任追及より原因究明を求める職場風土を求めて取り組みを進めます。

労働組合にしっかり説明すべきだ！

「見極め試験」不合格になり担務変更などされた場合、賃金などが変わり、社員の将来設計に影響をおよぼす恐れがあり、非常に重要な問題です。

JR東海労新幹線地本は、会社に説明を求めて申し入れをしました。しかし「掲示を見れば理解できる」とし、組合との協議を拒否しました。



「教育」「試験」とはどのような内容なのか？不合格の場合の「担務変更など必要な措置」とは具体的にどうするのか？など多くの不明点があり、掲示だけではわかりません。

JR東海労新幹線地本は、安全で明るく働きやすい職場をつくるため職場から声を出し取り組みを進めます。皆さんも共に声を出しましょう。